

「いと高き方の力におおわれて」

創世記 第18章 9節～15節
ルカによる福音書 第1章 26節～38節

説教 本庄侑子 牧師

ある時、御使ガブリエルがマリヤの前に現れて言いました。「恵まれた女よ、おめでとう。」
「あなたはみごもって男の子を産むでしょう。」
マリヤはヨセフと婚約中でした。温かい家庭を築いていくことを夢見ていたことでしょう。結婚前に妊娠したことが明るみになれば、結婚話が破綻するだけでなく、石打ちの刑で殺されてしまいます。御使の言葉は、マリヤの夢を粉々にしてしまいました。

この時だけではありませんでした。その後もあらゆる危機が訪れ、ついには息子イエスが十字架に架けられて死ぬ姿を見ることとなります。マリヤは救い主を身ごもったばかりに、生涯、悩みが絶えない人生を歩むこととなりました。

しかし、御使は言いました。「恵まれた女よ、おめでとう」。人生に悩みが絶えなくとも、胸が刺し貫かれるような出来事が起ころうとも、望んだような人生を送れなかったとしても、恵まれた人生だったのです。

恵まれているかどうかは、「主が共におられる」かどうかにかかっています。その中身は、神が救いの計画のためにマリヤの体と人生を用いるということでした。恵みは、自分の夢や願いがかなうことにあるわけではありません。お金に困らず、健康で、良きパートナーや子供に恵まれ、平穏な老後を過ごすことにあるのでもない。自分の一生を誰かの救いのために用いていただくところにあるのです。

マリヤはこれまで、世界に救いが来るようにと祈り求めてきたことでしょう。救い主が生まれるという知らせは嬉しいニュースでした。しかし、「見よ、あなたは身ごもって男の子を生む」。あなたが祈りの答えになる。そんな神の決意を明かされたのです。

マリヤは祈りました。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身になりますように。(Let it be with me according to your word.)」 「Let it be」は、歌のタイトルにもなった有名な言葉です。あなたがお語りになったことがこの身に成就しますようにと言って、神のご計画を引き受けている献身の祈りです。

マリヤが特別に信仰深かったから、このように祈れたのでしょうか。しかし、神の計画が明

かされた時、マリヤは恐れました。自分の理解や人生設計を超えて降りかかる出来事を受け入れることもできませんでした。マリヤも私たちと変わらない姿をしていたのです。

しかし、神はそんなマリヤを放置して勝手に計画を進める方ではありませんでした。天地を造られた神が、マリヤだけに向かって全精力を注ぎ込むようにしてお語りになった。聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたを覆う。天からの出来事が、あなたのお腹に新しく生み出される、と。

神はさらに、信仰の励まし手エリサベツも備えてくださいました。この時、エリサベツは妊娠6ヶ月。体の中で力強く成長する生命力を感じて、自分の人生に臨んでいる聖霊の業、御言葉の真実を体全体で味わっていたはず。最後に、御使は言いました。「神には、なんでもできないことはありません」。元の言葉には、「神には」に「言葉」「出来事」と訳することができる言葉がくっついています。「今、あなたに語られた言葉と出来事は必ず成就する」という神からの約束、宣言でした。

あの祈りは、神がマリヤの内に産んでくださった祈りでした。計画を進める前に親しく語りかけ、信仰の先輩を紹介し、約束の宣言をし、その計画を担うに必要な信仰と祈りを、その内に産み出してくださったのです。

マリヤの祈りを見届けるようにして御使は離れていきました。思えば日曜日ごとに、御使は、私たちがこの祈りを口にするのも見届けてきました。毎週、礼拝の最後に献金と献金の祈りを捧げているからです。神は主の日ごとに新しい計画を携えて私たちに礼拝へと呼び出されます。親しく語りかけ、信仰の友を傍らに置き、信仰を宿らせ、私をご用のために用いてくださいとの祈りを与えて、新しい週へと送り出してください。そうしてご自身のご計画を、私たちを通してまっすぐに進めてきてくださいました。

「恵まれた女よ、おめでとう。主があなたと共におられます。」私たちが皆、恵まれた人。恵まれた人生の只中に置かれ、ここからまた、恵まれた人生へと遣わされていくのです。

(記 岡村 恒)